

# 胆沢城跡(岩手県奥州市)

いさわ

胆沢城跡の全体図/政庁跡などの中心部が保存・整備されている



胆沢城跡展示紹介施設  
埋蔵文化財調査センター

胆沢城(いさわじょう/いさわのき)は、陸奥国胆沢郡(現在の岩手県奥州市水沢)にあった日本の古代城柵/延暦21年(802年)、坂上田村麻呂によって造営された/これは胆沢城跡中心部の配置図/南大路及び外郭南門→政庁前門→政庁→埋蔵文化財調査センターへと進んでみよう



南大路跡から外郭南門跡方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





ここは延暦21年(802年)に坂上田村麻呂が阿豆流為(アテルイ)の本拠地「胆沢」に造営した古代の城柵跡





さまざまな説明板がある

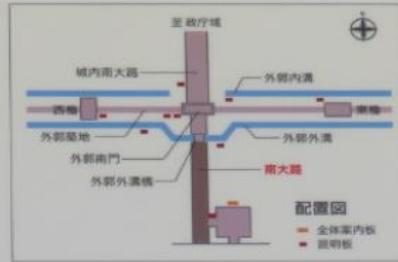


多賀城から胆沢城、そして志波城へとつながる官道が通っていたと云う

# 南大路

みなみおおじ

Main Road Leading to the South



南大路は、外郭外溝橋から南に直線的に延びる道路で、200m南の谷地川まで続いていることが確認されています。その先は、南の陸奥国府多賀城から北の志波城まで続く官道につながると考えられます。

## ■ 遺構の規模と構造

- ・ 路面幅は11m前後です。
- ・ 側溝は上幅1～2m、深さ0.5m前後で、何度か掘り直しされています。
- ・ 創建当初の南大路は、東西両側に素掘りの側溝が設けられていました。

## ■ 発掘調査の結果

- ・ 南大路を閉じるように柱列や建物が見つかります。
- ・ 南大路東側溝の東側には、入口を持つ東西方向の柱列があります。
- ・ 南大路の東西には、複数の建物が見つかります。

## 復元表示のポイント

- ・ 整備では、側溝が埋没した段階の道路を舗装で表示しています。



南大路位置図



南大路の航空写真



(クリックしてビデオを見る)



多賀城から更に北の「鎮守府」として機能した

# 国指定史跡 胆沢城跡

くにしていしせき いさわじょうあと

National Historic Site Isawajo Remains

## ■胆沢城とは

延暦21年(802)、坂上田村麻呂が、アテルイの本拠地「胆沢」に造営した古代の城柵です。大同3年(808)までに陸奥国府多賀城から軍政を司る『鎮守府』が遷され、10世紀中ごろまで、鎮守府胆沢城として機能しました。

大正11年(1922)10月12日、平城宮跡などと共に国指定史跡に指定されました。平成23年(2011)には、胆沢城の南方にある伯濟寺遺跡地区などが追加指定され、指定面積が554,472㎡となりました。

## ■胆沢城の規模・構造

- ・外周は櫓がつく外郭築地と内外の溝で方形に区画されています。外郭築地の長さは一辺約670m、総延長は2.7kmです。外郭築地では、南門と北門が見つっています。
- ・外周の南北門を結ぶ線上に、周囲を一辺約90mの堀で囲まれた政庁があります。政庁内は、正殿と東西の脇殿で構成され、北西隅に内神を祀っています。
- ・政庁南門の前に政庁前門があります。城内には厨をはじめ多くの施設があります。

## ■胆沢城の特徴

東北古代城柵の特徴である外郭施設のうち、外郭南門は国府多賀城よりも大規模な門で、特殊な構造をしています。政庁前門は胆沢城特有の門です。蝦夷をもてなす年中行事の『俘饗』が正月と5月に行われていました。



胆沢城跡全体図



9世紀末から10世紀前半の主要な施設が原位置に表示されている

## ■ 外郭南門地区の概要

外郭南門地区は、胆沢城に入る南中央に開く正門のある場所です。南大路を進むと、外郭南門の東西には外郭築地と櫓が位置し、見るものを圧倒する当時の景観を想像することができます。整備では、9世紀末から10世紀前半の主要な施設を原位置に表示しています。

## ■ 整備概要

- ① 外郭南門／発掘調査で確認された場所に、柱を埋めた穴と柱を表示しており、門の規模や柱の太さを知ることができます。
- ② 外郭築地と櫓／築地の一部を立体表示、その他を植栽で表示しています。外郭築地をまたぐ東西の櫓は、柱を建てて表示しています。
- ③ 南大路／当時の道幅を舗装で表示しています。
- ④ 城内南大路／外郭南門から政庁前門に至る道幅を舗装で表示しています。
- ⑤ 外郭外溝と橋／外郭南門前で台形状に張り出す溝の上幅と埋まりかけている状況を立体的に表示しています。溝をわたる橋は、発見された橋脚の痕跡を基に復元表示しています。
- ⑥ 外郭内溝／溝の上幅と埋まりかけている状況を表示しています。
- ⑦ 植栽地／調査により確認された当時の樹木を中心に植えています。

## ■ 建物の映像表示

スマートフォンやタブレット端末で、当時の外郭南門と外郭築地、櫓を3D映像により疑似体験することができます。右側のQRコードよりダウンロードしてご利用ください。

端末をお持ちでない方は、埋蔵文化財調査センターでタブレットの貸し出しを行っていますのでご利用ください。



前方が外郭南門跡





そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ





振り返って南方向(南大路)を見たところ



外郭南門跡の手前には外郭外溝を渡る木橋が見える



こな塩梅

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)







国指定史跡  
**胆沢城跡**  
National Historic Site  
Isawajo Remains

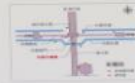
# 外郭外溝橋

Bridge to Main Gate

国指定史跡 組沢城跡

## 外郭外溝橋

がいかくそとみぞはし  
Bridge to Main Gate



外郭南門前の外溝の張り出し中央部に架けられた橋です。  
南大溝と外郭南門をつないでいます。

### ■遺構の規模と構造

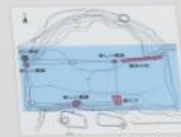
- 橋の架橋は、長さ約3.5m、高さ約2mで、石製の橋脚で橋げたを支えています。
- 橋脚には、長さ20m前後の丸太が埋められています。

### ■発掘調査の結果

- 橋は架け替えられ、古い橋の橋脚と、新しい橋の橋脚3本の柱、橋脚を支える土が1基見つかりました。
- 橋の架橋には、外溝北岸の土を押し上げるための杭が見つかりました。

### ■復元表示のポイント

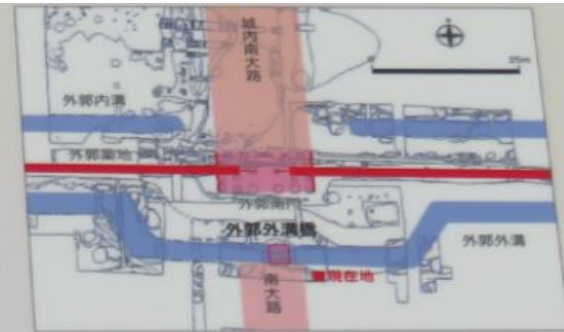
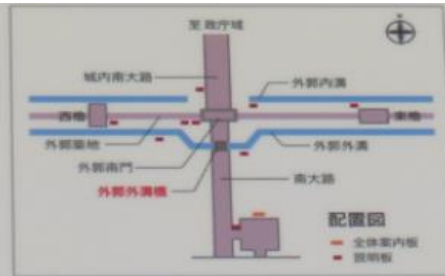
- ・まですりつけのない粗末なデザインとしています。
- ・橋の床板は、架け替えられた橋の床板に由来する石を使用しています。
- ・橋から外郭南門までの間は、土師器の土を埋め込んで復元されています。
- ・整備では、南大溝と同じ幅の橋脚として、多岐やすきに配慮しています。





# 外郭外溝橋

がいかくそとみぞはし  
Bridge to Main Gate



外郭外溝橋位置図

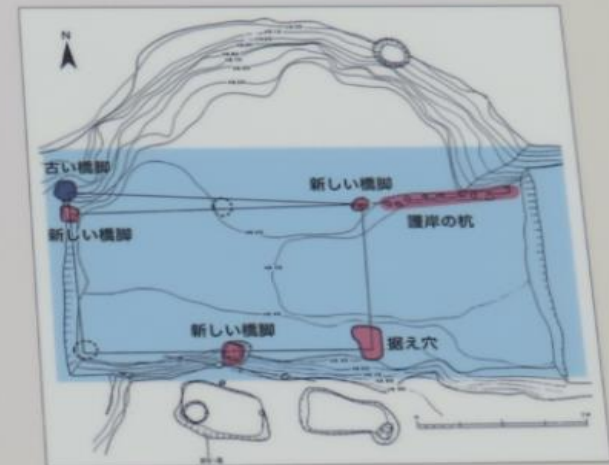
外郭南門前の外溝の張り出し中央部に架けられた橋です。  
南大路と外郭南門をつないでいます。

## ■遺構の規模と構造

- ・ 橋の規模は、東西約3.5m、南北約2mで、6本の橋脚で橋げたを支えています。
- ・ 橋脚には、直径20cm前後の丸太が使われています。

## ■発掘調査の結果

- ・ 橋は架け替えられ、古い橋の橋脚1本、新しい橋の橋脚3本その他、橋脚を据える穴が1基見つかっています。
- ・ 橋の東側には、外溝北岸の土を押さえるための杭が見つかります。



橋周辺の拡大図

## 復元表示のポイント

- ・ 手すりをつけない簡素なデザインとしています。
- ・ 橋の床板に胆沢城の建材によく使われるクリを使用しています。
- ・ 橋から外郭南門までの間は、当時門前の広場として使われていたと推測されます。整備では、南大路と同じ幅の舗装として、歩きやすさに配慮しています。



橋脚と護岸の杭

ここが外郭南門跡/掘立柱の位置が表示されている





そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



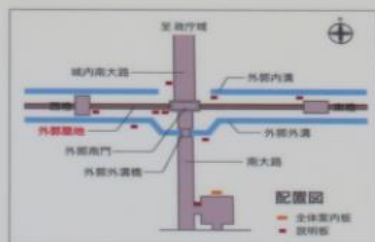




# 外郭築地

がいかくつじ

Outer Perimeter Earthen Wall  
with a roof



胆沢城の外周を方形に区画する土塀です。  
外郭築地の各辺をおよそ10分割した場所に、門や櫓やぐらを配置しています。

## ■遺構の規模と構造

- ・築地下端の幅は2.4mです。
- ・屋根を支える柱がないため、台形状に積み上げた土塀に直接屋根をのせたと推測されます。

## ■発掘調査の結果

- ・築地は土を何層にもわたって突き固めて築いています。
- ・築地は3mの長さを一単位として築いています。
- ・瓦の出土量が少ないため、瓦葺きではなかったと推測されます。

## 復元表示のポイント

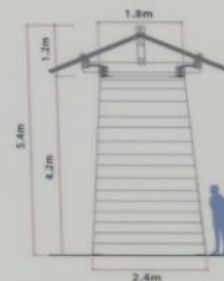
- ・門を挟んで東西15mづつを復元しています。
- ・土塀の高さは、4.2m(14尺)としています。
- ・屋根は板屋根としています。
- ・地盤が軟らかいことから、築地を実物復元することが難しいため、パネルで復元し、軽量化を図りました。



外郭南門地区(東から)  
築地痕跡は削られはつきりしません。



外郭東辺北半の築地痕跡(北から)  
2列の小さな柱穴が築地を築くときの柱跡、  
大きな柱穴が櫓の柱跡です。



復元築地 断面図



築地構築作業(模型)



# 外郭南門

がいかくみなみもん

South Gate for the Outer Perimeter

胆沢城の正門である外郭南門は、東北古代城柵<sup>じょうさく</sup>では規模・構造ともに例のない門で、朝廷の権威を誇示していたと考えられます。蝦夷支配と在地経営<sup>えみし</sup>に乗り出す朝廷の意向が反映されたとみられます。

## ■遺構の規模と構造

- ・東西約15m、南北約7.2mの規模です。
- ・地面を方形に掘って柱を据えた<sup>ほつたて</sup>掘立柱建物で、中央に扉が付きます。
- ・瓦葺きに建て替えた門は、その重さを軟弱な地盤で支えるため、柱穴に玉石を詰める工法<sup>つぼり</sup>(壺地業)を用いています。

## ■発掘調査の結果

- ・門は同位置、同規模で建て替えられています。
- ・建て替えた門は、915年以前に取り壊されたと考えられます。

## 復元表示のポイント

- ・9世紀後半に建て替えた瓦葺きの門を表示しています。
- ・外郭南門の内側に入る築地を立体的に表示しています。
- ・玉石を詰める掘立柱の構造を、南門柱穴(右側空中写真赤丸)で復元表示しています。
- ・当時の姿を、スマートフォンやタブレット端末で体験できます。右側のQRコードよりダウンロードしてください。



屋根に葺かれた瓦  
上:屋根の軒先の瓦  
左:屋根棟の両端に使われた鬼瓦



外郭南門想定図



外郭南門航空写真



こな塩梅





さて、外郭南門跡から築地土堀内に入ろう

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



これは城内南大路/この前方に政庁跡が存在する





そこで左手を見たところ





国指定史跡 前沢城跡

## 城内南大路

じょうないみなみおおじ  
South Main Road Interior of Isawajo

外郭南門と虎行前門までの間にある遺構がない空間を  
城内南大路としています。

■遺構の規模と構造

・城内南大路の長さ約、外郭南門から虎行前門まで約140mで、  
幅は東西約15mと推定されます。

■発掘調査の結果

- ・城内南大路を区画する道路遺構はありません。
- ・外郭南門と虎行前門の間は、建築物を建設しない空間となっ  
ています。
- ・城内南大路の東西には、萬や柱列で区画された建物群が見つかる  
ています。

■復元表示のポイント

・城内南大路は、南大路とは異なる色の舗装で表示しています。

# 城内南大路

South Main Road Interior of Isawajo



城内南大路位置図



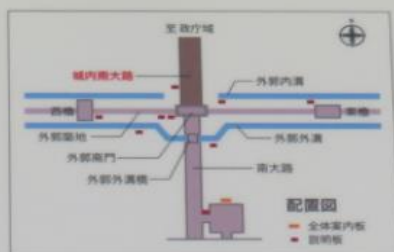
外郭南門と虎行前門を結ぶ城内南大路



# 城内南大路

じょうないみなみおおじ

South Main Road Interior of Isawajo



城内南大路位置図

外郭南門と政庁前門までの間にある遺構がない空間を城内南大路としています。

## ■遺構の規模と構造

- ・城内南大路の長さは、外郭南門から政庁前門までの約140mで、幅は東西約15mと想定されます。

## ■発掘調査の結果

- ・城内南大路を区画する道路側溝はありません。
- ・外郭南門と政庁前門の間は、建物群を建設しない空間となっています。
- ・城内南大路の東西には、溝や柱列で区画された建物群が見つかります。

## 復元表示のポイント

- ・城内南大路は、南大路とは異なる色の舗装で表示しています。



外郭南門と政庁前門を結ぶ城内南大路

これは外郭内溝





これは右手(東方向)を見たところ





# 外郭内溝

West Surrounding Interior of Perimeter

## 外郭内溝

外郭内溝は、外郭の内部に設けられた溝で、主に排水や灌漑の目的で利用された。この溝は、外郭の内部を縦横に走り、各区域を区別し、水の循環を確保していた。また、防犯上の役割も果たしていたと推定される。

### 外郭内溝の構造

外郭内溝は、主に土や石で構築された。溝の深さは、排水の効率を高めるために、一定の傾斜を確保していた。また、溝の幅も、水の滞留を防ぐために、適切な幅に設計されていた。

### 外郭内溝の役割

外郭内溝は、主に排水や灌漑の目的で利用された。この溝は、外郭の内部を縦横に走り、各区域を区別し、水の循環を確保していた。また、防犯上の役割も果たしていたと推定される。





# 外郭内溝

がいかくうちみぞ

Moat Surrounding Interior of Perimeter

胆沢城の<sup>がいかくつじ</sup>外郭築地の内側を廻る溝です。  
外郭南門の北側で途切れています。

## ■ 遺構の規模と構造

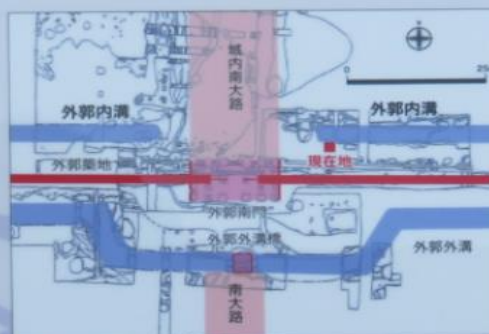
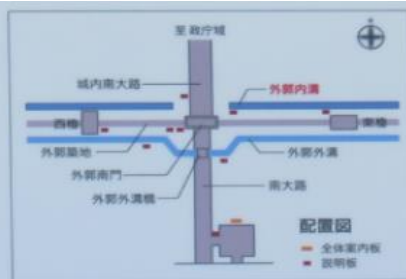
- ・ 溝の幅は3.5m前後、深さは0.5m前後です。
- ・ 内溝は、外郭南門の前で途切れています。
- ・ 十和田火山の噴火による火山灰が堆積する915年頃の溝の深さは、0.2m前後と浅くなっていました。

## ■ 発掘調査の結果

- ・ 溝の上層には、外郭築地の崩れた土がブロック状に堆積している状況が確認できました。
- ・ 内溝の周辺では、多数の土器や瓦を捨てた穴を確認しました。

## 復元表示のポイント

- ・ 溝が埋まりかけている915年ころの状態を立体的に表示しています。



外郭内溝位置図



外郭南辺内溝写真  
(西から)



外郭東辺北半の内溝断面  
(915年頃 白線まで堆積)



外郭南辺内溝断面  
(西から)

東側から西方向を見たところ/左手の木杭は東櫓の掘立柱の位置を示す

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)







国指定史跡 明智城跡

### 東櫓

ひがしやぐら

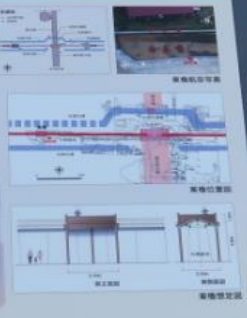
East Turret

櫓は東正古代城郭の外郭を特徴づける施設で、兵隊  
置場やよそ10分置した場所に配置されています。非対  
称には、射手が置り外敵に矢を射かけます。

■ 遺構の規模と構造  
兵隊置場の東側部の中程にあり、東西に長い矩形です。  
- 規模は東西5.4m、南北は比高があるため不明ですが、他の兵隊置の幅が3.5mほどと推定されます。  
柱は角柱3本の構造です。

■ 発掘調査の結果  
東西2.7m、南北幅3.0mの古い櫓と、東西3.4m、南北  
幅3.5mの新しい櫓に建て替えられています。

遺構表示のポイント  
- 櫓の位置関係は図面を参照してください。  
- 櫓の構造は発掘調査報告書をご覧ください。  
- 当時の遺構は、スマートフォンアプリ「あまのこころ」で  
確認できます。あまのこころアプリダウンロードはこちら  
をご覧ください。



East Turret

# 東櫓





# 東 櫓

ひがしやぐら  
East Turret

櫓は東北古代城柵の外郭を特徴づける施設で、外郭築地をおよそ10分割した場所に配置されています。非常時には、射手が登り外敵に矢を射かけます。

## ■ 遺構の規模と構造

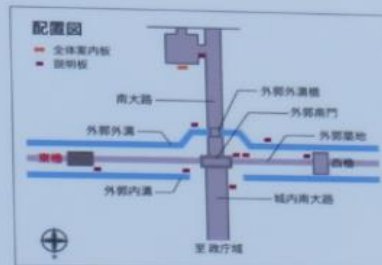
- ・ 外郭南門の東約65mの位置にある東西に長い建物です。
- ・ 規模は東西5.4m、南北は民家があるため確認できていませんが、他の外郭の櫓から3.9mと推測されます。
- ・ 柱は直径30cm前後です。

## ■ 発掘調査の結果

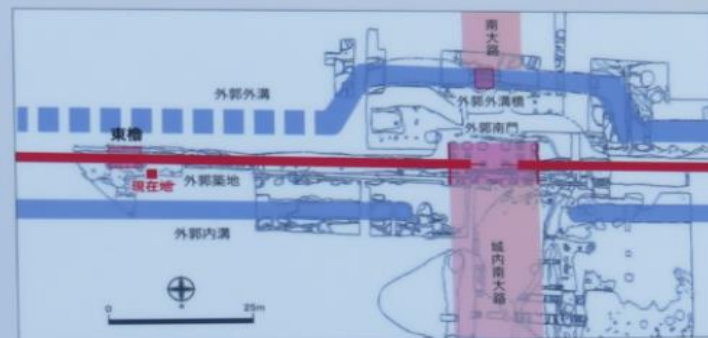
- ・ 東西2.7m、南北推定3.9mの古い櫓から、東西5.4m、南北推定3.9mの新しい櫓に建て替えられています。

## 復元表示のポイント

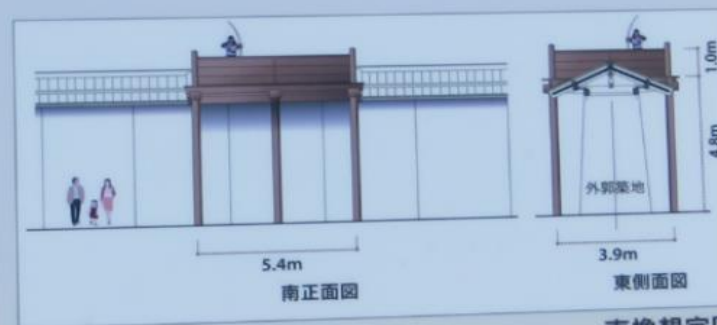
- ・ 築地の北側の3本の柱を表示しています。
- ・ 櫓の下を通る外郭築地を植栽により表現しています。
- ・ 当時の姿を、スマートフォンやタブレット端末で体験できます。右側のQRコードよりダウンロードしてください。



東櫓航空写真



東櫓位置図



東櫓想定図



これは西側から東方向を見たところ/西櫓の掘立柱の位置が表示されている/右手は外郭外溝 [\(クリックしてビデオを見る\)](#)





外郭外溝  
外郭外溝は、市街地の外縁部に設けられた排水施設で、雨水を貯留・調整し、河川に流出させることで、洪水リスクを軽減し、都市の持続可能な発展に貢献しています。

外郭外溝  
Outer Ring Ditch





# 外郭外溝

がいかくそとみぞ

Moat Surrounding Outer Perimeter



外郭外溝航空写真

胆沢城の<sup>がいかくつじ</sup>外郭築地の外側をめぐる溝です。  
外郭南門の南側では、南へ大きく張り出しています。

## ■遺構の規模と構造

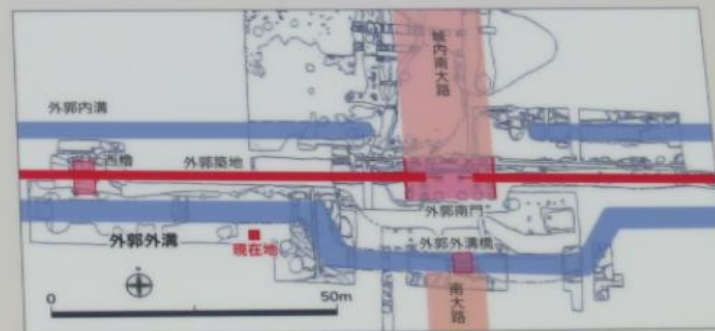
- ・ 溝の幅は4~6m、深さは1m前後あります。
- ・ 十和田火山の噴火による火山灰が堆積する915年時点の溝の深さは0.7m前後です。



外郭南辺外溝断面  
(915年頃 白線まで堆積)

## ■発掘調査の結果

- ・ 外郭南門の張り出し部分で、杭を打って板や細い木を渡した護岸施設が見つっています。
- ・ 北と東西の外溝は門や櫓の前で外側に張り出しますが、外郭南門西側の櫓ではまっすぐ延びています。



外郭外溝位置図

## 復元表示のポイント

- ・ 溝が埋まりかけている915年ころの状態を立体的に表示しています。
- ・ 農業用水を流すため、復元溝の底に水路を設置しています。

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





# 西櫓

にしやぐら  
West Turret

櫓は東北古代城柵の外郭を特徴づける施設で、外郭築地をおよそ10分割した場所に配置されています。非常時には、射手が登り外敵に矢を射かけます。

## ■遺構の規模と構造

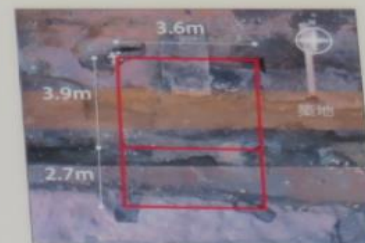
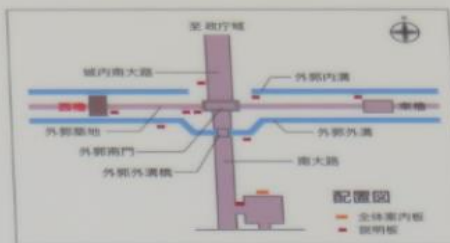
- ・外郭南門の西約65mの位置にある外郭築地をまたぐ南北に長い建物です。
- ・規模は東西3.6m、南北6.6mです。南北方向3本の柱間隔は、外郭築地をまたぐ部分が3.9m、外郭築地の外側が2.7mです。
- ・柱は直径30cm前後です。

## ■発掘調査の結果

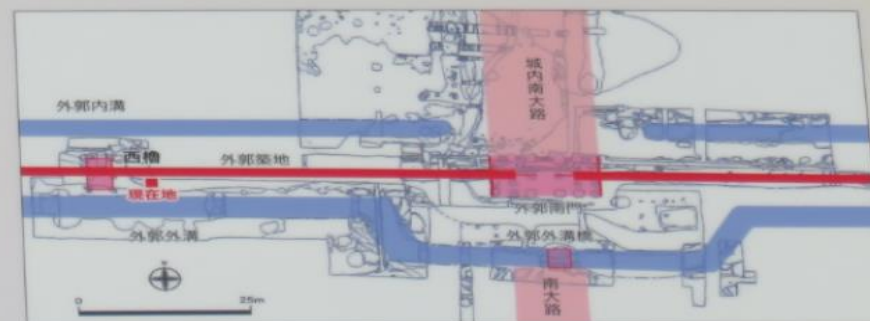
- ・東櫓とは異なり南北に長く、南に張り出した構造です。

## 復元表示のポイント

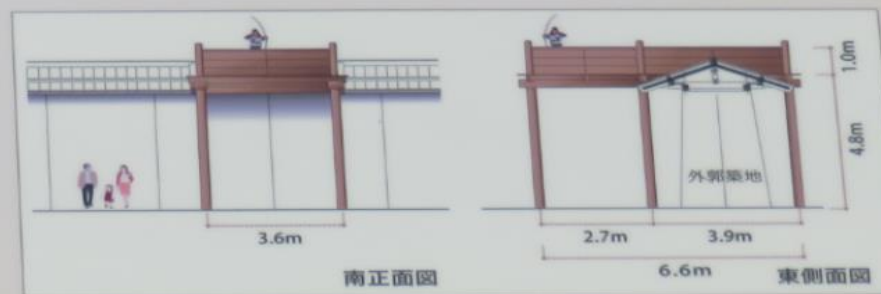
- ・築地をまたぐ6本の柱を表示しています。
- ・櫓の下を通る外郭築地を植栽により表現しています。
- ・当時の姿を、スマートフォンやタブレット端末で体験できます。右側のQRコードよりダウンロードしてください。



西櫓航空写真



西櫓位置図



西櫓想定図

さて、これは政庁跡へと進んだ所/標柱が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





ここは政庁前門跡の手前で、政庁前門跡の更に前方には政庁跡が残っている



政庁跡の復元模型図





政庁前門跡辺りから政庁跡方向を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



正面は政庁南門跡でその奥が正殿跡

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





正面は南門跡でその奥が正殿跡

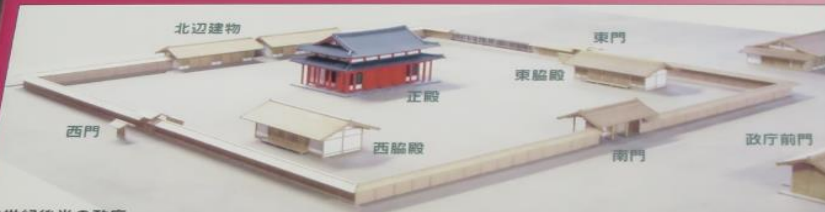




正殿の復元図



政庁正殿(9世紀後半)



9世紀後半の政庁

政庁正殿は胆沢城の中心建物です。9世紀後半の建物は、東西約18m×南北約12mの礎石建物で、屋根を瓦でふいでいます。建物内部は土間で、机やいすを使用していました。柱は朱塗り、壁は漆喰(しっくい)、緑の漆子窓(れんじまど)を用いた建物として復元しています。出入りは、南面中央三力所と東面の板扉を利用していたと推定しています。なお、発掘調査の結果、基壇などの痕跡は発見されませんが、復元では、建物廻りに土留めの自然石を想定しています。



胆沢城政庁正殿

いざわじょうせいぢょうせい でん



ここが正殿跡



政庁正殿



その更に右前方を見ると、城域外に所在する鎮守府八幡宮が見えた





さて、ここは外郭南門跡手前にある奥州市埋蔵文化財調査センター



中に入ってみよう

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





さまざまな資料が展示されている

いさわじょうあと

## 胆沢城跡

第112次調査—外郭南門付近の発掘—

調査機関:一般財団法人奥州市文化振興財団  
奥州市埋蔵文化財調査センター  
調査期間:平成30年11月12日～19日

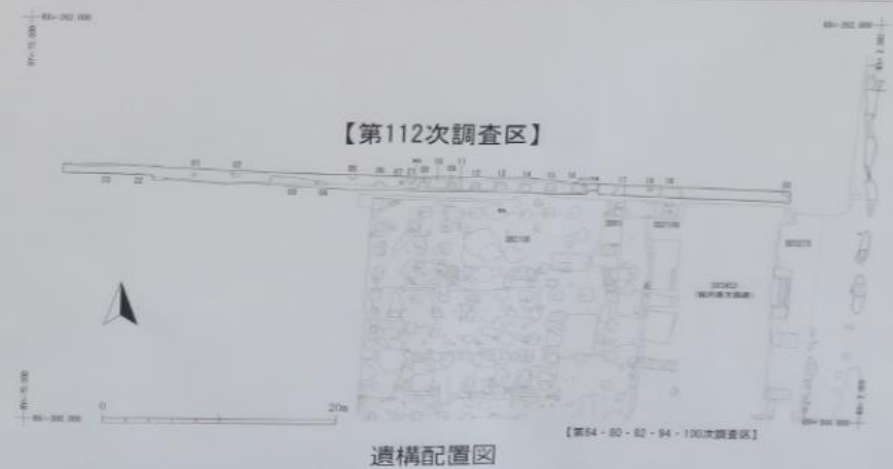
胆沢城跡第112次調査区は、水沢佐倉河字四月地内に位置します。発掘調査は、歴史公園整備が進められている外郭南門跡の北側で行われ、城内南大路跡（外郭南門から政庁へ向かう道路）と東西の側溝跡、掘立柱建物の一部と考えられる古代の柱穴跡が見つかりました。柱穴は7基が見つかり、幅約0.8～1mの大型で、直線上に東西6間が並びます。これらの柱穴群は、城内南大路跡より西側に多く見つかっており、過去の調査でも多くの掘立柱建物跡が確認されています。そのことから、西側に何らかの官衙ゾーンが存在していたことが推察されます。



柱穴群の検出(東から撮影)



遺跡位置図



遺構配置図



柱穴の検出(北から撮影)



遺構の掘削(東から撮影)

阿豆流為(アテルイ)の像が立っている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





アテルイについての説明板

## 「アテルイ」とは

「阿弭流為(アテルイ)」とは、今から1200年ほど前(奈良時代から平安時代にかけて)、ここ胆沢の地に、平和で豊かな暮らしを送っていた蝦夷(エミシ)の長の名前です。「日本書紀」の一説に「東夷の中に日高見の国(ひたかみのくに)がある。その人達を蝦夷という。勇悍(ゆうかん)な人達である。土地が肥えていて広い。征服して領土とすべきである。」とあるように朝廷にとって胆江地方は未開の地であり、それでいて魅力のある土地でした。この胆江地方を支配下におきたい朝廷は、8~9世紀にかけて幾度となく兵を投入したが、阿弭流為をリーダーとする蝦夷軍は、この地をそしてここに住む人々の幸せを守るため、38年間にわたって勇敢に戦いを挑み、一時は朝廷の5万の兵を撃退するなど、都にもその名を轟かせましたが、802年(延暦21年)、坂上田村麻呂の助命嘆願にもかかわらず朝廷によって処刑されたと伝えられています。

## アテルイ没後

～延暦八年の戦い

## 甦るア





胆沢城の復元模型もあった

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



「巢伏(すぶし)の戦い」の想定図/延暦8年(789年)、巢伏村(現水沢市辺り)で、征東将軍紀古佐美(きのこさみ)率いる朝廷軍とアテルイ率いる蝦夷軍が戦い、朝廷軍が大敗するという事態が起こった/このことは、朝廷の権威を傷つけたばかりでなく、陸奥国支配のシナリオをも揺るがしかねない重大な事件として、エミシ(蝦夷)征伐の機運がさらに激しさを増していくこととなる/しかし、やがて、時代は奈良から平安へとかわり、紀古佐美から坂上田村麻呂へと蝦夷征伐が引き継がれ、延暦21年(802年)、度重なる戦いで疲弊した蝦夷の行く末を憂いてアテルイは降伏/陸奥国は、朝廷の統治下に置かれることとなり胆沢城が造営される

## 延暦8年(789)『巢伏の戦い』想定図



- 『巢伏の戦い』の概要
- 1 中・後軍4千、北上川を渡り北上。
  - 2 アテルイ率いるエミシ300余と中・後軍交戦。アテルイ、隔断作戦をとり中・後軍を奥地に誘い込む。
  - 3 中・後軍追撃、ムラを焼き巢伏村に至る。
  - 4 前軍の渡河がはばまれ、中・後軍との狭み撃ち作戦が阻止される。
  - 5 巢伏村に至るとき、エミシの新手800余が参戦。その力が甚だ強く中・後軍退く。
  - 6 東の山から伏兵400余が現れ中・後軍の退路を断つ。別將文部善理、進士高田道成・金津仕麻呂・安宿戸吉足、大伴五百禰ら25人が戦死。負傷者245人。
  - 7 前後に敵を受けた中・後軍は「日上の渡」に追われ、溺死者1,036人、1,257人が甲冑を脱ぎ捨て泳ぎ帰る被害を受ける。

**衣川營 (兵27,470人)**  
 <現地指揮官>

征東副将軍 入間広成  
 前軍別將 安倍高継(鎮守副将軍)  
 左中軍別將 池田真牧(鎮守副将軍)

資料軍運動 12,440人 (征伐10日)

五道兼(補給基地)

国府多賀城

東海・東山・新羅諸島の動員計画 歩騎52,500(十陸奥・出羽国の兵士)

征東将軍/紀古佐美  
 副将軍/鎮守将軍・多治比麻成(南道征討計画?)  
 紀真人(補給計画?)  
 下野守・佐伯葛城(遠征中見込、予備利源征討計画?)  
 入間広成(征伐征討計画)

## アテルイ登場前夜/延暦8年以前



7世紀末から8世紀初めの陸奥国の北限は仙台平野にあり、郡山遺跡に国府(Ⅱ期官衙)があったと考えられています。このころの「胆沢」は陸奥国の外に位置する地域で、律令国家との新貢を通した緩やかな関係を結んでいました。7世紀末から8世紀前半の古墳副葬品の和同開珎や帯金具などがその様子を伝えています。

その後「黒川以北十郡」が設置され、724年の多賀城造営、760年の桃生城、雄勝城造営、767年伊治城造営と陸奥国の領域が宮城県北地域まで拡大します。律令国家の辺境経営は城柵の設置、東国からの移民をもとに進められ、周辺地域を含めたエミシとの緊張を高めていきました。774年には海道地域のエミシが反乱、780年の伊治公普麻呂の反乱と続きます。このなかで「胆沢の地」「出羽国志波村」も征討対象となり、胆沢のエミシを率いるアテルイが登場します。



# アテルイ時代のムラ

石田遺跡(奥州市水沢字寺領)発掘調査報告書を参照してアテルイ時代のムラの様子を紹介します。住居跡は古期(Ⅱ-1期)の9棟、新期(Ⅱ-2期)の14棟が見つっています。

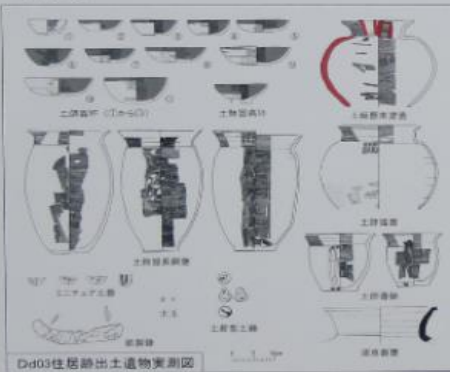
竪穴住居の規模は一辺2.9m~3m、4m~5m、6m~7mの3タイプに分かれます。小規模なDa15住居(Ⅱ-2期)は2.9m×2.4m、床面積が6.96㎡で団地間の4.8畳に相当します。最も大きなⅡ-2期Ea27住居は8m×7.3m、床面積が58.4㎡で40畳となります。

住居跡に残された土器などから、次のようなアテルイ時代の生活の一端が見えます。

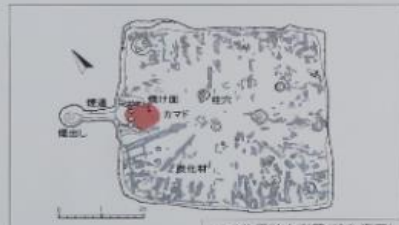
- 1 須恵器の使用** / 胆沢地方では生産されない須恵器が、Ⅱ-2期に出現します。緊張関係が高まった「三十八年戦争」といわれる時期ですが、宮城県側との交流、交易で入手したと考えられます。
- 2 鉄器** / 鎌や馬具の一部が発見されています。なお、延暦6年(787)1月21日の太政官符にエミシが交易で得た鉄から農具を作っている様子が見え、アテルイ時代の鉄器生産の一面を知ることができます。
- 3 祭祀** / ミニチュア土器や朱を塗った土師器の壺が出土しています。アテルイたちが行った祭祀に使われたと思われるます。
- 4 紡錘車** / Ⅱ-1期C130住居跡から糸を紡ぐ紡錘車が見つかり、麻などをつかって布を織っていたことが分かります。
- 5 食生活** / 胆沢地方では弥生時代から稲作が始まり、アテルイ時代も当然米作り行っていますが、出土した投網のおもりから川や池で魚をとっていたことも分かります。  
Ⅱ-2期Ea50住居跡ではシカやイノシシ等の骨が見つっていますが、胆沢城で行われるエミシ饗応の儀式に動物の肉が出されることから、エミシが食べた残骸と考えられます。



石田遺跡遺構実測図



Da03住居跡出土遺物実測図



Df59住居跡実測図(遺失家屋)

Ⅱ-1期Eg09、Ⅱ-2期Bd71・Df59住居跡で垂木の炭化材などが見つかり、火災で消失した家屋であることが分かります。延暦8年(789)紀古佐美の征討。同13・20年(80)坂上田村麻呂の征討との関連も指摘されます。しかし、消失家屋は22棟のうちの3棟だけです。近隣家屋の炭焼もなく、村を焼き払ったイメージと異なるようにも見えます。

# アテルイの本拠地 / 胆沢のムラ

アテルイが活躍した奈良時代後半の集落は、下図のように胆沢扇状地北側の水沢・胆沢地区、北上川東の江刺地区、胆沢川北側の金ヶ崎地区に大きく分散しています。この集落のなかにアテルイの本拠地が存在することになりますが、現状では確定できません。3地域の遺跡概要は、次のとおりです。

## (1) 胆沢扇状地北側地区(水沢・胆沢)

地形的には扇状地のなかで最も低い水沢段丘に位置する集落群です。水沢段丘は高位面とその中央に位置する低位面に分かれています。低位面は胆沢川が高位面を開削した低地で大規模な灌漑工事を伴わずに水田耕作が可能な湿地や湧水が豊富な場所です。

この低位面に接する高位面の縁辺を中心に、アテルイ本拠候補地の角塚古墳周辺遺跡の漆町・二本木・清水下遺跡、北上川流域の杉の堂・熊の堂遺跡群などが展開しています。

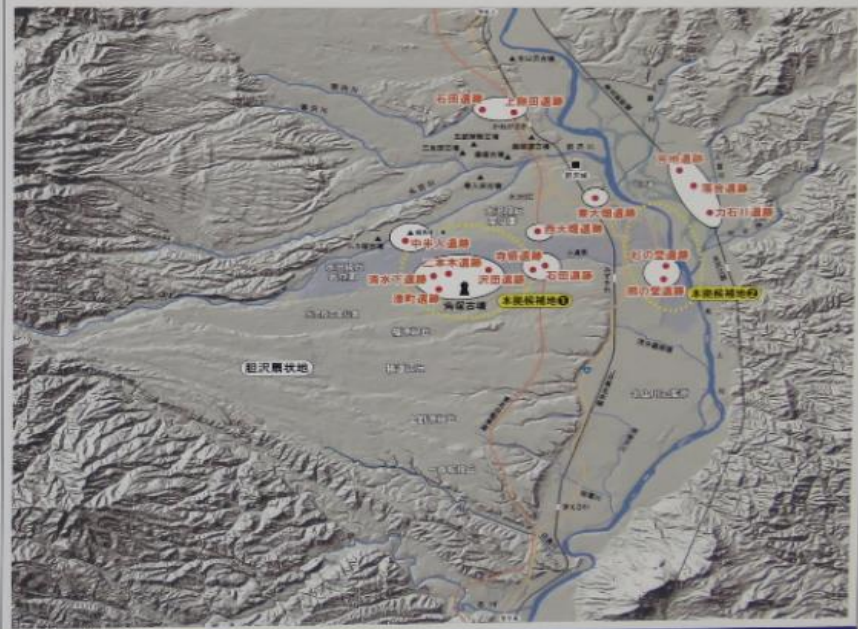
## (2) 北上川東地区(江刺)

延暦8年(789)「果伏の戦い」の主戦場となった『果伏村』地域です。北上川の氾濫地域で旧河道が多く残っています。旧河道が削り残した微高地を中心に、宮地遺跡、落合遺跡、カ石Ⅱ遺跡が確認されています。

## (3) 胆沢川北側地区(金ヶ崎)

宿内川南側に石田遺跡、上餅田遺跡が位置しています。安倍氏の海鳥橋周辺地域でも、終末期古墳が多く分布することから、アテルイ時代の集落が存在した可能性があります。

なお、衣川・前沢地域は北上川の氾濫原や高位段丘にあり、生活環境や水田経営の面で適さず、胆沢城造営後の平安時代にならないと利用されなかったようです。





朝廷側の支配に服したエミシは俘囚(ふしゅう)と呼ばれ、捕虜となって国内に移配されるものや朝廷側に取り込まれていくものがいた/後者の中から、やがて俘囚長として権勢をふるう安倍氏や清原氏、そして奥州藤原氏が台頭することとなる

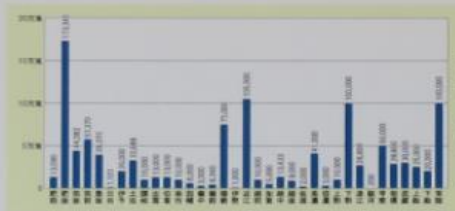
## アテルイ後—内国に移配されたエミシ

律令国家は、東北に関東などから多くの移民を送り込むとともに、エミシを内国に移住させる政策をとりました。

陸奥・出羽などから移住したエミシの足跡は関東・北陸地方から九州地方まで49か国で確認されます。最南端は多嶺嶋(種子島)で、『日本後紀』延暦24年(805)10月23日条に播磨の俘囚吉弥保部兼麻呂など10人の流配記録があります。

移配エミシの状況は複雑で一般農民と同じ待遇を望む者の他、反抗、訴訟に及ぶ者、防人として近江国から大宰府に再移配された例も見えます。

出身地が関係されるエミシ	
出身国	遠野河公志志 (奥第一等)
種別	去及公嶋子 (奥第二等)
近江国	宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下) 宇津南公孫多摩(外従五位下)



諸国の俘囚計上数  
 俘囚科はエミシに支給する食糧を確保するための賃し付け(出挙)を経て、その3割が利息額として徴収される。  
 天智10年(721)陸奥国正税額が設定する「入部(税)」を基準にすると、俘囚(12)が徴収される食糧は、1年(360日)72家となる。  
 各国の俘囚計上総数1298,509家は、4,584.6人に相当する。(『新撰式目録』から)

### エミシ移配関係図表



### エミシの内国移配記録

西暦	和暦	内容
725	神亀2	①陸奥国の俘囚144人を伊予国、578人を筑紫、15人を和泉国に移配。
738	天平10	②陸奥国の俘囚115人を播磨国、62人を筑後国に移配。
776	宝亀7	③陸奥国の俘囚395人を大宰府管内諸国に分配。 ④出羽国の俘囚358人を大宰府管内と畿内国に移配。78人を諸司と参議以上に班賜し職とする。
795	延暦14	⑤俘囚吉弥保部兼麻呂父子を殺した俘囚大伴部阿弓良と妻子親族66人を日向国に再移配。
799	延暦18	⑥野心を改めず賊地を往還する陸奥の俘囚吉弥保部兼麻呂と妻の田岡女、吉弥保部都保吉と妻留志女を土佐国に配す。
800	延暦19	⑦俘囚60余人、新たに出国に到着。
802	延暦21	⑧俘囚吉弥保部小槻麻呂ら常陸国に移配(アテルイ降伏時?) 『新撰式目録』延暦21年9月26日条から推定
811	弘仁2	文室麻呂の征夷に伴い蝦夷を内国に移配。

## アテルイ後—在地残留エミシ

坂上田村麻呂による征討後の802年(延暦21)正月、胆沢城の造営が始まり駿河、甲斐、相模、武蔵、上総、下総、常陸、信濃、上野、下野の浪人4千人の胆沢城移配が命じられました。一方、胆沢をはじめとしたエミシは、内国移配組と在地残留組とに分断されたと考えられます。

この胆沢城下に、804年(延暦23)までに、磐井・江刺・胆沢の3郡が設置されます。郡内の郷は下表のとおり関東地域の国・郡・郷・小里名と同じ例が多く、関東地域から移住した人々の出身地だと想定されます。この関東系移民と残留エミシが混在していたようです。

エミシがどう処遇されたか不明ですが、エミシ出身の上毛野胆沢公毛人が江刺郡の定員外の長官に登用されています(『続日本後紀』承和8年(841)3月2日条)。発掘調査でも江刺郡が機能した様子が明らかになっています。多賀城市の山王遺跡から、「□□□甗(江刺郡)」とへら書きされた須恵器の甗が出土しています。甗は胆沢城の瓦などを焼いた瀬谷子窯跡の製品で、江刺郡から陸奥国府多賀城に液体状の品を送った容器です。税か貢納物が不明ですが、郡が機能していることを示しています。

811年(弘仁2)、志波城下に和我・穉穉・斯波郡が設置されますが、志波城を移転した徳丹城は850年頃までには廃絶し鎮守府胆沢城の一極体制に再編されます。『和名類聚抄』にも郡・郷名の記載がなく、北と南3郡の様相が違ったとも考えられます。

アテルイの想いと現実はどうだったのか。800年代中頃には、連年のようトラブルが発生します。移民は怪しい噂を恐れて逃亡し、エミシたちは武装して一触即発の状況になりました。火山活動や地震といった自然災害や不吉な星の出現などが重なったことも騒ぎを大きくしたようです。アテルイ降伏後も不安定な社会状況が続きました。

その一方、斯波地域の物部斯波連宇賀奴のように、朝廷側について軍功をあげ、位を与えられたエミシもあり、残留エミシの状況は複雑だったようです。

### 磐井・江刺・胆沢郡の郷名と同名所在地

郡名	郷名	同名国・郡・郷・小郷
磐井郡	丈八郷	駿河国富士郡丈八郷、武蔵国入間郡山田郷
	山田郷	上総国市原郡山田郷、常陸国久慈郡山田郷、上野国山田郷、下野国那須郡山田郷など
	砂澤郷	上総国天宗郡護国郷磐井
江刺郡	大井郷	駿河国富士郡大井郷、甲斐国巨摩郡大井郷、武蔵国久良郡大井郷、安房国安房郡大井郷、下総国相馬郡大井郷、常陸国那賀郡大井郷、信濃国筑摩郡大井郷、下野国那須郡大井郷、出羽国平賀郡大井郷など
	信濃郷	信濃国
	甲斐郷	甲斐国
	穉穉郷	
胆沢郡	白河郷	陸奥国白河郡白川郷
	下野郷	下野国
	家口郷	
	上総郷	上総国、武蔵国高麗郡上総郷
白鳥郷	白鳥郷	常陸国鹿嶋郡白鳥郷
	家内郷	



多賀城市「山王遺跡」出土須恵器甗  
 ①全体 ②縁部「江刺郡」 ③へら書き「和名」  
 ④へら書き「村名」 ⑤へら書き「郷名」

### 〈在地残留エミシ〉

- 812(弘仁3) 宇漢米公色男(外従五位上) 爾敷南公儀依(外従五位下)断会参判を特に許され入京。
- 838(承和5) 宇漢米公毛志(征伐勲功により外口五位下職位)
- 840(承和7) 物部斯波連宇賀奴(逆襲に成らず、これまでの功勞より外従五位下を叙位)
- 841(承和8) 江刺郡大領上毛野胆沢公毛人(外従五位下職位)
- 881(元慶5) 陸奥国高麗郡 物部斯波連永野(外従五位下職位)
- 887(弘仁21) 和哉連口(白米5斗胆沢城に貢納)



2階の展示室の様子

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



こんなものも





当館に飾られている地酒「胆沢城」1000円、「阿豆流為」1500円/いいね！



参考ホームページ

[http://www.thr.mlit.go.jp/isawa/sasala/vol\\_31/vol31\\_2fr.htm](http://www.thr.mlit.go.jp/isawa/sasala/vol_31/vol31_2fr.htm)

<https://sirotabi.com/8444/>

<http://www.kit.hi-ho.ne.jp/nagae/isawa.html>

[https://suido-ishizue.jp/nihon/04/03\\_1.html](https://suido-ishizue.jp/nihon/04/03_1.html)

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/yan-shou-xianno-cheng-ji/dan-ze-cheng>

[https://search.yahoo.co.jp/search?p=%E8%83%86%E6%B2%A2%E5%9F%8E%E8%B7%A1&ei=UTF-8&ts=63508&aq=-1&ai=2IFNINBWQoWAeDOxEzZBA&fr=top\\_ga1\\_sa&b=51](https://search.yahoo.co.jp/search?p=%E8%83%86%E6%B2%A2%E5%9F%8E%E8%B7%A1&ei=UTF-8&ts=63508&aq=-1&ai=2IFNINBWQoWAeDOxEzZBA&fr=top_ga1_sa&b=51)

<https://murakumo1868.web.fc2.com/02-ohsyu/01-008.html>



